雜錄

婦人界に及ぼす俳優の勢力

昨年の夏、暇を得て房州の海岸に遊びし時、何團とかいへる壯士俳優の一團來り居て興行し居たりき。由來地方の風俗を壞亂するもの、彼等より甚しきはなし。眞率平穩なる房州の浦邊も亦彼輩の害毒の犯す所となりては、團欒せる一家も忽ち風波の絶ゆる間なく、爲に慈母を失へる孤兒あり、家產を盪盡せし寡婦あり、父母兄弟夫婦離散して一家散亂せしもの數を知らず。吾は此狀況を見聞して、まさに彼等俳優の面に唾せんとしたりき。

もとより其こゝに至る所以のもの、一は田舍女子の教育なきに依るとはいへども、熟々觀ずれば、我邦婦人界に及ぼす俳優の勢力たるや實に驚くべきものあり。嘗て京都に遊びし時新京極の通りに於ける寫眞舖に多人數の夫人令孃の群集せるを見て、何事ならんかと、行き見れば嗚呼何ぞ圖らん、此夫人令孃たちは其店頭に曝されたる俳優の寫眞を咏めんが爲に群集したるなりけり。近くは、之を東京に見よ俳優の似顏を附けたる羽子板を喜ぶもの、獨り賣女醜婦に止まらざるなり。否年の市に於ける羽子板に彼等の似顏を附せざる時は、少しの賣行を見ずといふ。尙一歩を進めんか、普通の婦人たちの中には兒女弟妹の通學せる學校の名も教師の姓名も知らざるを耻とせず、反つて家橘染五郎の名を知らざるを耻とする人々もありとか。更に又一歩を進めんか、美術品として、裝飾品としては、殆んど三文の價値もなき簪に、たゞ自分等の愛顧せる俳優の紋形を附けたる故を以て五錢十錢の金を投じて爭ひ購ふを見よ。若しくは彼等の劇場を退出する際の如き、如何に爭ひて其風采に接せんとするか、更に又、

彼等の喪葬に際して如何に慟哭愛惜の意を表する婦人の多きことよ。

古は川原乞食と呼ばれ、今は男なにとかと歌はる彼輩の、此の如き勢力を我婦人界に及ぼせるを見る以上は、所詮我邦婦人界の地位も尚未だ甚高からざるを知るなり。

湯屋のさま〳〵

◉せど湯　私は、元來性質が狼狽者ですから、この間も狼狽こんで、男湯だと思つて飛込まうとして、きわどい所ろで氣が附いて見れば女湯だつた。はつと思つて、そこ〳〵に引き返して來たのですが、其折不圖目に留つたのは、「せど湯無用」と麗々しく美濃紙に書いて、眞中に張出て居た張紙であつた。其時は別に何の氣も附かないで戻つたのでしたが偖後から考へると分らない。抑々「せど湯」と云ふ意味が頓と解せない。で、是非なく婦人の方に、一體女湯に「せど湯」と云ふものがあるのですかと聞いた所が、なる程其人の話で分つた「せど湯無用」の意味は、つまりこうなのである。

母「少しのどがはれましたようですから」
醫「ハー〳〵なるほどハー〳〵」

まづ、一人の婦人が、湯に入つてると、そこへ自分の知合の婦人が、またやつて來る。そうすると、前から居つた方が挨拶して、二ッ三ッの湯桶に湯をなみなみと酌んで、さーお使ひといつて出す。すると、酌まれた方からも、返禮の意としてまた、四五盃の桶に湯を酌んで出す。また、片々から五六盃酌んで出すといふ樣に、十許の桶が互ひにあちらこちらと衝突つて居る夫と同時に二個の頭が兩方で、しきりに上下して居るこれが所謂「せど湯」なので、こうなると、たとひ、使

ひたくなくつても使はねばならず、いやでも酌んで出さなければならぬが、湯が餘計に入つて困るのは、三助である。そこで、この張紙の必要が起るのだとのこと。

◉湯錢のこと　其婦人の話されるには『湯錢だつて、あなた、馬鹿になりませんよ。まー、積つて御覽なさいませ二錢五厘が、あたりまへの湯錢でしよう、夫にぬかが五厘流が一錢夫から髪を洗ふと、それが五錢、みんなで八錢もかゝるんですもの』なる程私どもが田舍にありし頃は三厘で湯に入れた、夫から較べると、大したもんだと申さねばならない。

◉湯尾での公德　少し尾籠な話ではあるが、この間、湯屋へ行た所が警察からの達だと申す事で、流場に『この處唾はき又は放尿すべからず』と書いた張出がして居つた。この張出が抑々我邦人の缺點を曝露してるのですが、ひどいじやありませんか、そこへ、一人のお客がやつて來まして立ちながら、この張出を見て居つて、やがて、そこへ、うづくまつて放尿して居られた。こゝに至ると我同胞の社會的道德と申すものは全くゼロと云つて宜しい

「ドレ見てあげよう、くちをあけて、あーと云つて」
子「あー……」

石井泰二郎氏よりの書翰

前號の本誌雜錄內「禮節作法教授の注意」の項に付き同君より左の書面を寄せられたり。

雜錄禮節作法教授の御注意は、單に小笠原流などの事にて御說の通りにても候はんが先きに禮法教授については、今回設立の禮法講習會の講師について初めて見ることを得べくと存じ候間、此段御しらせに及候（生きた禮法は四百年前より傳はり居り候事に御座候

盗賊遊戯

近頃、東京市内の子供等、大勢集りて盗賊の眞似をして遊ぶこと大分流行せる樣なり。即、一人が盗賊になり、他の一人が巡査になりて、これを縛りて引き歩き、他の子供等は、大勢で、はやし立てて行くなり。箇樣な遊戯は是非とも學校家庭等より禁じられたきものなり。

改良衣服について

婦人の覺悟

婦人の改良衣服問題、近年甚盛なり。然れども、其論述する所の人々は多く男子に在り。事は直接に婦人に關せるに、併も其可否改良の異見の我婦人社會の口より出づるもの甚少きは吾人の頗遺憾とする所なり。はた又議論頗多くして實行甚少なし、今日或部面の教師生徒間に行はるゝ着袴の風、頗改良に近しといへども之とても在來のと相距る五十歩百歩のみ、併も尚之をすら敢て用ふると肯んせざる向もあり、なる程或方面より見る時は凡そ新奇のものは目慣れた所より舊來のものに比して異樣に感ぜらるゝに相違なし。維新の際、從來結髪し來りし男子が忽之を斷ち切りて散髪頭となりし風采が、其當時に於て如何に異樣に感ぜられしかは、今日より想像するに餘あり、併も、今日の散髪頭を以て、昔風の結髪を見る、まことに間抜けの樣に感ぜらるゝにあらずや。改良衣服も亦、斯の如きのみ、其新奇にして目慣れぬ故を以て、不都合と知りつゝも尚舊態に拘泥する樣にては衣服の改良到底望むべからず、所詮事は、婦人直接自身の問題なり、他人

「醫「ハイ！大分はれて居る硝酸銀でやいてやりませう」
「子「あー……」

の男子に一任するよりは先づ自進んで考究し發表せざるべからず、然して稍意見の確定したるあらんか即奮つて之を凡べての場合に着用する覺悟なかるべからず。見つともないからと云ふことで、いつまでも着用に躊躇する樣では、未來永劫改良の機あるべからざるなり。

矛盾の性情

虛心平氣、極めて冷靜の眼を以て、極めて沈着の態度を以て所謂國家的感情の如きをも一掃して以て、詳に我國民に付きて深く觀察する所あらば、誰しも吾人同胞の性情言行に著しき反對と矛盾とを發見せん。

由來我國は、禮儀の國と稱せらる。なる程一個人の間には、殆んど繁文褥禮と言ひたき程、禮式作法につきて面倒を云ふ國民なり。併も一度、出でゝ公衆社會に接するに及びては、禮儀は問ふ所にあらず、作法は顧みる所にあらざるなり。近來、頓に世人の注意を引ける公德問題は要するに我同胞の、この矛盾の性情言行を看破せるに過ぎざるなり。

由來、我國民は非常の潔癖性と稱せらる。論ずるまでもなく、或點に付きては、確に潔癖と稱するを得べし。然れども自ら潔癖と稱する紳士にして蓬々たる鬚髯の何時理髮したるかを知らざる風采を以て人を訪うて敢て不潔とせざる、指先の爪延びて二三分、其間に垢のたまりて灰色となれるをも顧みずして菓子をつまみて平然たる、カラーの暗灰色となり、カフスの眞黑くなれるも平氣にて、フロックコートを上に着用せる等之れ豈潔癖性の國民のなすべき所ならむや。家庭の生活に付きて曰はむか、夜毎の寢具を毎朝日光に曝すことは淸潔上より云ふも、衞生上より云ふも極めて必要なることなるに、之を實行せる人果して幾人ぞ學校の寄宿舍等に於ては殊に、はなはだしきものあり食卓の上に、食器を洗へる汚水の手桶を直接に幷べて平然たり、これ抑も潔癖と稱する國民の忍ぶ所ならむ

や。野蠻國と呼ばるゝ印度土人の家庭の潔癖なるを見ずや、はた、又先進國たる歐洲人の潔癖なるを見ずや。擧げ來れば此の如きもの只に二三に留まらざるなり。

吾人は之等我邦人の缺點を顧みて大に學校教師殊に禮式作法教師たる人々の反省を求めざるを得ず舊法に拘泥し、形式をのみ責むる時は永劫其甲斐なかるべきなり。

思ひ出るまゝ

△吾嘗て、東北に遊びたる時、客舍の一室に病伏す、宿の小女來り告げて曰く

『旦那樣、うすのつゝさまいりますが、びゝつこめすあがりますかえ』

何とも解し兼ぬるまゝ聞き質すこと再三回にして漸く其意を了し得たり。牛の乳來れり少しく召し上らずやの意なりしなり。

△吾嘗て、清國人某と語る。時に吾同窓しきりにローンテニスに勝敗を爭ふ。某曰く、

『御國の方は、大變運動熱心です、學問熱心です、皆宜しい。私の國大に學ばなければなりませぬ。併し一般に御國の食物は不甘いです、ですから學生の身體は大變にいけない。食物に付いては御國の人たちは、私の國に學ばなければなりませぬ。』

子「あ……ゝ痛たハッナッ……」
母「やー〳〵こりやたまらん〳〵」

△同じ國の學生、既に我邦に留學して、二年の後、殆んど吾が國語につきて了し得たりや否との吾の問に答へて曰く。

『大抵出來ました。併し、日本のでには中々難儀です。夫に手紙の語のむづかしいのに弱ります。御伺ひ致すべき筈に御座候處失禮のみ仕り御海容奉願候

と云ふ樣なを覺えるには、まことに難儀致しました夫に御國の言葉は、大變に長いです。私の國で久濶と言へば、たゞ二言ですむのですが御國の語にしますと、「いやどうも長々御無沙汰致しました」と云ふ樣ですから、中々大變に骨折れます。』

△序に、もう一つ支那人のことを記さんか。嘗て共に大に文學を論じて我國の漢詩に及ぶ。彼曰く。

『御國の詩は駄目です。私の國の詩を凡で講釋して歌てるのです、平仄も韻も私の國では樂器に合ひます、御國の樣では、これは一つも用がありますまい。』

吾は此議論には一言もなかりき。

彙報

○東京府第一高等女學校。『目下非常の狹隘を感じつつある同校は、愈本年四月より麻布邊に新築し來年四月頃までに完成せしむべく、完成の上は生徒數を六百人までに增員し、十五學級に編成すべき見込なりと。因に記す、同校本年の卒業生は五十八名にして新に入學せしむべき生徒は凡四十八名、來四月五六日頃入學試驗擧行の筈なりといふ。

○東京府教育會附屬幼稚園保姆傳習所。　同傳習所は愈去る二月より開始することゝなり、同月四日を以て開業式を擧行せり。幹事長岡五郎氏開會の辭を述べられ、會長岡部子爵は左の意味の演說せられたり。

本會附屬幼稚園保姆傳習所を開設すること今回を以て都合三回とす。思ふに社會が保姆を要求すること近來頓に急に迫りて次第に保姆の不足を感ずるに至りぬ。單に幼稚園の保姆のみならず、家庭に於ける善良の保姆の供給亦今日の急務となり、現に予の如きも、之を求むること、既に六ヶ月の久しきに渡りて尙未だ之を得る能はず。當所は、固より幼稚園の保姆を養成するを目的とすといへども、亦家庭に在